

4) 岡本 紘 様のご挨拶

本日はこのような席にお招きいただきまして本当にありがとうございました。私も正装は普段やっておりますので、今日は心が改まる気持ちでございます。

通研に入所したのが昭和 41 年ですから、今井先生の研究室の歴史をお伺いすると、皆様はちょうど、私が入る前の卒研生ということになります。そのころと比べると私が入った時から通研は随分せましくなったように思います。逆に時代のコントラストがはっきりしていて、面白いお話だと伺いました。私達のところにも確かに夏期実習に学生さんが来られたのを覚えております。いかんせん夏休みだけの期間だったので持ち出しの方が多かったような印象を持っています。学生さんとの接触の思い出は殆んど無くて、皆様のようなコミュニティーを作るような状況ではなかったのですが、今お聞きしたお話では、当時は大変良い時代だったのだなあという感じがいたします。

専門は、今井先生が通研でなさった化合物半導体の研究でして、22年間通研に在籍しましたが、通研を卒業してから3年ほどは古河電気工業というところの研究所に勤務しました。その後、千葉大学の方にいきました。

今井先生に会報への執筆を頼まれたときに、もう一つ難題を押し付けられていましたが、そちらは難しかったので会報の執筆を選ばせていただき、大学で経験した問題を書かせていただきました。大学でのことは皆様をご存知ないことも多く、いじめ報道や教育再生会議の議論と合わせて関心のあることでもあらうと思いましたが、ちょうどいいチャンスを与えて頂いたと思います（会報第 10 号記念号に）書かせていただいたわけです。

健康状態については、40 歳半ばで心筋梗塞を患い、その時は救急車で運ばれて何とか救われました。10 年後にもう一度予兆を感じ、通勤の途中で発作の予兆を起し、タクシーで病院に行き、これはすぐに治まるかと思ったのですが、その2～3日後にベッドの上で本格的な発作を起しました。これはもう開胸手術しかないと言われ、バイパス手術をさせられました。

そんなわけで、60 歳を過ぎて、年金受給の資格が出来たら仕事を止めてもいいと思っていましたので、それで大学を辞めました。現在何をやっているかと言いますと、通研というところはありがたいところで、先輩や仲間が色々心配をしてくださる、今井先生が非常に私のことを熱心に色々な所に薦めていただきました結果、現在は某大学で非常勤講師をやっています。

それ以外に、実はこれほどの仕事になるとは思いませんでしたが特許の翻訳をやっています。NTT 研究所の系統会社ですが、そこから特許翻訳の仕事をもたらってくるのです。技術の勉強に非常に役立つだけでなく、公的な文章なので決まりや、しきたりがうるさくて、それを間違えないように注意して翻訳を進めるのは結構頭を使うことになり、老化の防止になっています。

例えば、今、青色発光ダイオードの特許が話題になっていますが、あの類の特許の最新版が回ってきたりして楽しく仕事をやっています。学術文献の翻訳はあまり実益性のある仕事とは認識されていないのですが、特許は実際の産業界に非常に密着した大事な文章なので、結構実益性も良いのでびっくりしています。

某大学での非常勤講師ですが、ここでは学生実験の面倒を見えています。簡単な電気回路ですが、学生には殆んどゼロから教える必要はありません。例えば CR 時定数というのがありますが、キャパシタンスと抵抗を掛けると時間のデイメンジョンになる、という、「デイメンジョン」って何ですか、と質問が飛んでくるのですね。その程度の質問に対応しなければ進まない。それから回路の周波数特性をとる課題で、3 桁に亘って周波数を変化させてプロットすることになるのですが、片対数方眼紙を渡すと学生さんは、原点がどこなのかが全然分らないのですね。現代の学生さんは計算尺を使ったことがないことからくる現象でしょうか。

現代は、少子化は紛れも無い事実で、若者の人口が年々顕著に減っています。そしてそれ自体がゆとりの教



平賀 様 (左) と岡本 様

育になっているわけです。誰でもが大学に入れるわけですから、競争の少ないゆとり教育です。ところが文部科学省がさらに「ゆとり教育」なんてやっているわけで、これでは「ゆとり」×「ゆとり」で、「ゆとり」の「二乗」みたいになってしまっているわけです。それだから大学の教育現場も今申し上げたような感じになってしまうのですね。非常に嘆かわしいことだと思って過ごしています。しかしまだ多少余力がありますので、これからもこのような教育界の改善に多少とも貢献していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(今井先生：岡本さんは通研に 22 年間いたわけですが、安易に迎合しない方でした。また、大学では、“キッテルの教科書” の「ここが間違っているではないか」と隅々まで予習し、納得の行く講義をされる方です)。

岡本 紘 様 略歴 (会報第 10 号より再掲)

- ・昭和 39 年 東京大学工学部電気工学科卒、昭和 41 年 同大学院修士課程電子工学専攻終了。
- ・同年 NTT 入社、同電気通信研究所に勤務、半導体レーザーなどの研究に従事。
- ・昭和 63 年 10 月：古河電気工業(株)入社、同横浜研究所に勤務。
- ・平成 4 年 3 月：千葉大学工学部教授 (機能材料工学科) (平成 16 年 9 月まで)。
- ・著書：「超格子構造の光物性と応用」(昭和 63 年、コロナ社)、ほか。

5) ご挨拶と乾杯の音頭 倉本 敏雄 様

先に今井先生からもご紹介いただきましたけれど丁度今から 5 年前に、先生から卒研究生の名簿を作ってくれないか、と言われ引き受けたのですが、全く消息が分らない方が何人かいました。分らないその一人を探すのが非常に大変でした。最近になって最後の一人がやっと分りまして、結局全員が分りました。これで名簿づくりが完成、ということになりました。

平賀先生や岡本先生、今井先生も私よりは十分高齢ですが非常にお元気です。それに対し、私は昨年入院し、手術などをしましたが、経過があまりよくない状態ですが、何とかがんばってみたいと思っています。

どうも本日はお忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。乾杯！

(第六回懇親会出席者によるスピーチ後半部分は、次回 会報第 12 号 に掲載を予定しております・編集担当)

3. 2007. 04. 05 に寄せられた近況報告、

1) 鈴木威一様より 2007. 4. 23 近況報告

出席させていただきます。

近況；特別有りませんが、しいてあげれば以下の通りです。

1. 仕事 自分自身が設立した会社エグゼクティブ・コンサルティング社は 3 年半目になった。

www.executive-consulting-j.com

新規業務として国際知財流通業務を始めた。 www.ecpat.jp

2. 若い IT ベンチャーの会社 (エグゼック) の経営をお手伝いし始めた。 www.i-exec.jp

3. ボランティア活動として 3 ヶ月に 1 回の割合で始めた、「一期一会」の会が 10 回目を迎え、4 月 18 日に記念会を盛大に行った。 www.executive-consulting-j.com/ii

4. 長女が外国人と結婚し外国 (ヨーロッパ) で暮らす事になった。

5. 新規チャレンジする案件も、遊びたい件も益々増えつつあるが、力は落ちていて、附いていけなくなりそうなので取捨選択が重要になってきている。

こんな処でしょうか。

幹事ご苦労様です。有難う御座います。

Takeichi Suzuki, CEO, Executive Consulting Co. Ltd. Tokyo, 153-0052, Japan

2) 多村卓様より 平成 19 年 4 月 24 日

坪井様

会員皆様様

早速のご連絡有難うございました。

大変残念ではありますが、来る 7 月 28 日（土）私事ではありますが、私の誕生日。それを兼ねてマレーシア方面に旅行の計画を立てております。

数年前海外赴任で滞在した場所も含めて訪問する計画であります。

そんな訳でせっかくのお誘いですが、本年も貴会懇親会出席ができません。末筆ながら貴会の益々の盛会をお祈り致しております。

取り急ぎご連絡方々。 敬具 多村 卓

3) 橋本潔様より 2007. 04. 26

坪井様

いつも大変お世話になり有難うございます。伊藤さんの件ですが小野；多村さんとも連絡を取り合いましたが今のところ不明です。どうしたのでしょうか？姉上が通研の近くにいらっしゃるのですが住所がわかりません。連絡取れ次第おしらせします。

7 月の懇親会に出席させていただきます。平賀様はTDK時代に大変お世話になりました。その後ご無沙汰のままで 20 年以上たってしまいました。お目にかかれることをたのしみにしております。近況ですが幸か不幸か相変わらずの 畑、Cello、会社 のくりかえしです。今後ともよろしく願いいたします。

4) 梅枝茂弘様より 2007. 05. 02

坪井孝光様

ご無沙汰しております。私は 4 月 30 日中国から帰ってきました。中国も日本と同じように労働節で 5 月 1 日より約 1 週間の連休に入っております。中国では相変わらず忙しく働いており、私としても久しぶりの連休を日本で過ごしております。連休後は 11 日より再び中国に行き、多分 8 月のお盆前に帰ることになると思います。従いまして、7 月 28 日は中国に居る関係上出席できませんので宜しく願いいたします。

中国の生産活動の状況は、ご承知のように急激な経済成長で物価・賃金の上昇とともに最近では中堅管理者や技術者の不足による優秀な人材の引き抜きが横行し、特に私が働いている東莞(トンガン)地域ではその傾向が顕著です。2 年近くかけてようやく育て上げた人材が突然他社に移るといったことの繰り返しで、悩みの種になっております。

一方、特に EU からの環境保護のための RoHS 指令による製品への使用部材の制限や米国からの労働環境の改善等の要求が中国にある製造企業に対して厳しさを増しており、香港資本の中国にある企業の中には既に規模を縮小するかベトナムに生産基地を移すなどの動きがでております。

世界の工場と言われて久しい、中国。それも広州・東莞地域ですが、3 年後・5 年後どの様な状況になって行くのかを考えると、決して今までの延長で行けるとは思えません。 梅枝茂弘

4. 会報 第 10 号 記念号 にお寄せ戴いた感想文

1) 黒田裕允様より 2007.03.19

坪井 様

第 10 号のご案内を頂きありがとうございました。

最後に執筆されている坪井さんの『私の原点にあるもの(その 5)』で披露されたトリニトロンテレビのガラスの物理的解析は大変興味深く拝読いたしました。現在市場ではブラビアのブランドでソニーのテレビが売っていますが、坪井さんがおられた大崎の皆さんのご努力がそのベースにあることがよくわかります。ガラス製のモニターはプロ用として今でも生産されていると伺っています。液晶が世の中の主流をしめるようになりましたが、坪井さんが展開された事業部での開発思想は受け継がれているに違いありません。

岡本様の『大学入試』は現在の教育問題に関連して出題と採点に問題があることのご指摘で、マスコミなどの報道では聞けないユニークなご報告でした。英語と物理の採点をされているとのこと。ここでも感じましたことは、日本語は論理的でなく解釈ミスを起こすことです。日頃英語を使って仕事をしていますが、よほど日本

語よりやさしく思います。日本語による出題で問題とならない科目は国語と歴史、社会関係です。科学、数学の出題でちゃんとした、わかりやすい日本語で出題しないことには誤解を生じる可能性をはらんでいるのではないかと思ったりしています。

SVI-Thailand Kuroda Hiromitsu

黒田 裕允

2) 藤野徳三郎様より 2007.03.19

坪井様

今井研卒研究生・有志の会 の第 10 号の会報をホームページにて拝見しました。

私の感想まで載せていただき恐縮です。

皆さんの研究熱心・色々な事にチャレンジには感服しました。

科学・宗教・生活デザイン等、色々と多岐にわたりとても参考になります。

ありがとうございました。

3) 大竹昭次様よりお電話にて 2007.03.19

元ソニーでの直属上司 大竹様よりお電話をいただき『会報を見ました。継続は力だからがんばって下さい』との励ましのお言葉をいただきました。確かに、会報の 1 号よりも 2 号、2 号より 3 号とパソコンの知識も技能も向上してきているのが私自身でも感じていたところでした。これからも継続し、より良き会報作りに努力していきたいと肝に銘じたところです。お電話、ありがとうございました。(坪井孝光記)

4) 鈴木威一様より 2007.03.20

今井先生

ご苦労様です。ご連絡有難う御座いました。

何も出来ませんが、会場の件は坪井さんと相談して、少しでも皆さんのお役に立つよう努めたいと思っております。

平賀さんへメールを送っていただいたとの事有難うございます。

奥様もご健在でしたか、本当に良かったです。ご健在かどうかそのような問いかけをする事に躊躇しておりました。お差し支えなければ、そのうち平賀様の連絡先をお教え戴き、ご夫妻とお電話でお話をするか、何処かでお目にかかりたいなどとも思っております。

会報 10 号については、届くと同時に遣りかけていた他の作業を止め、最後まで一気に読ませていただきました。

さすがに、今回は外部の方も、立派な文を寄稿されていますので、感想を述べるにも少し構えてしまい、拙速にメールで感想を送ることを躊躇ってしまいました。

会報を未だ受け取ったばかりですので、もうしばらくお時間を戴きたく存じます。

私にとって、平賀様の奥様は、前述したように特別な方であり、橋本太吉様も卒研の時には何度もお見かけした記憶があります。岡本様の書かれた入試実態には驚きを隠せません。藤本様、黒田様は私のやってきた仕事に関係の深い知財、そしてタイ王国の話ですから、大いに興味を持って読みました。

私の駄文は別として、橋本潔様の宇宙観の図は素晴らしい力作ですし、坪井様の書かれた、ブラウン管の記事も、私がフィリップス時代には販売を担当した主な商品の一部でしたから、興味深く読ませていただきました。

そんな訳で、素晴らしい会報の前に感心するばかりです。

寄稿された方、編集から印刷までをご担当いただいた今井先生、坪井さんの（特に私のスピーチを文章化するという、面倒で地道な仕事をやっていただいた）ご努力に対し深い敬意を表したいと存じます。

有難う御座いました。

Takeichi Suzuki, CEO, Executive Consulting Co. Ltd.

Tokyo, 153-0052, Japan

5) 高井謙次様より 2007. 04. 15

巻頭文で今井先生が書かれる通研の研究室やそこで要職を勤められた方々の思い出は、いつも新鮮で、ひきつけられながら拝読しております。橋本父子の2代にわたるNTTでの活躍を賞賛するとともに、同類の分野に従事した経験者として懐かしく拝読させていただきました。電気通信業界も1985年の事業法改正に伴う自由化とインターネットならびに携帯電話の普及で、基本的な通信構造が大きく変わり、収益性の面で苦境に立たされることが多くなりましたが、今井先生が述べられているように、NTT 常務取締役の橋本信様の今後のご活躍を祈念すると共に、日本の通信業界のリーダーとして大いに手腕を発揮されることを期待しております。

- (1) 今回、今井先生ならびに坪井幹事のご尽力で、第 10 号の特別寄稿として、卒研究生以外の4名の方々からの記事が紹介されましたが、平賀様の愚直の効用と称される貴重な体験談や岡本様の大学入試にまつわる問題点の指摘などこれまでとまた違った角度からの含蓄ある内容を、大変興味深く読ませていただきました。さらにタイでのご勤務に基づく黒田様の紹介されたタイ人の心のゆとりは、今日日本人が一番必要な物と同感いたしました。
- (2) 鈴木さんの懇親会での講演は、当日都合により聞けなかったのですが、今回拝読してチャニタさんの人柄に大変親しみと尊敬の念を抱きました。この方のご発言には少しの力みもなく、一家庭人としての役割を第一優先すると同時に、自分の子供に必要と思われるものを世の中に提供している結果の成功であるとお話になるほどと首肯すると同時に、この方に潜在する非凡さを感じました。その反面、例えばライブドア事件にみられるような権謀術数に走りがちな現代日本の世相に対し、大きな矛盾を感じさせられました。
- (3) 懇親会スピーチ
 - ・ 橋本さんの「宇宙観」図は、以前私にも送っていただき、寝室の壁にはって、なにか落ち込む出来事があった時などに眺めては勇気づけられています。
 - ・ 坪井さんのバイオリン改造については、以前書かれた記事を思いだしながら、痛快にも似た思いで拝読しました。それにしてもバイオリン製造は気の遠くなるような長い年月が必要なのだということに改めて驚嘆しました。
- (4) 坪井さんの「私の原点にあるもの(その5)」で述べられている、ソニーのトリニトロン方式のカラーTVですが、私が結婚した頃にこの方式のTVが発売され大評判になり、新婚の我が家でも1台購入しました。大変色彩がよく、その後、長い間何のトラブルもなく使用しました。今回、その陰で大変なご努力があったことを初めて知りました。ブラウン管の破損原因の調査に、ジグソーパズルなみにガムテープでつなぎ合わせる方法を取り、問題を解決されたということを読み、「学問に王道なし」という格言は研究にも通じるものなのだという事を教えられました。現代日本ではMA(企業買収)やIPO(新規株式公開)で簡単に大金を得ることが、ややもすれば、もてはやされていますが、根本的には地道な産業活動しか日本経済の低迷を救う道はないのだろうということを改めて思い知らされました。
最後に、今井先生ならびに坪井さんの会報作成へのご努力に改めて感謝申し上げます。

6) 鈴木威一様より 2007. 04. 16

感想

会報第10号は、痛まないようダンボールが同封され、郵送していただいた。早速開封すると、市販の雑誌と見紛ほどの立派な装丁で、厚みもある立派な会報であった。早速ぱらぱらと捲ってみて、気になっていた自分の記事から目を通した。文章力の不足で、皆さんにお見せするのを恥ずかしく思いながら、はじめに戻って読み始め、他の方の投稿文章が面白く一気に最後まで読んでしまった。

今回の特徴は、今井研卒研究生以外の方の投稿が多いと言う点である。先生の研究者としての生涯で知己を得られた(私はお目にかかった事がないが)素晴らしい方々の投稿であり、興味深いものであった。特に平賀さんのお人柄が想像されるエピソードが、ご自身の人生哲学と共にさり気なく述べられていて、本当に偉い方は謙譲であると改めて思われました。

平賀様にはお目にかかったことが無いのですが、母の友人としてお付き合い戴いた平賀様の奥様には、母が踊りの発表をする会の席で何度かお目にかかっております。

今回不思議なご縁に驚いております。又文中にてくる早坂所長はNTTの後沖電気に来られ、小生が技術本部に勤務中、専務取締役技術本部長として、おそばで仕事をさせて戴きました。私はペーパーでしたがそ

のフロアで最も若い部員？であったので、何かと可愛がって戴いた記憶のみがあります。

岡本様の大学入試の話には、吃驚致しました。先生と言っても神様では無いので、完璧は有り得ないのでしょうが、教育問題の根の深さを感じます。今でもこのような実態なののでしょうか？この件は先生方が自分たちの恥部を隠しあってやってきた甘えの構造にその本質が有るように思われ、日本の官僚組織、医者の世界、と同質の何かを感じます。

岡本先生のような勇気のある方が、機会あるごとにこのように公表することによって少しずつでも開かれた良い日本になって行くのでしょうか。そう有って欲しいものです。とにかく驚きました。

藤本様の近況ご報告にある、知的財産高等裁判所の専門委員と言うお仕事に興味を惹かれました。と言うのは昨年からの知的財産の国際流通を仕事に出来ないか試行錯誤を始めている為です。将来お目にかかる折があれば、是非関連する色々な事を御聞きしてみたいと思いました。

そして黒田様のタイのお話です。私も、タイに現地法人を設立し代表取締役として会社運営を行いましたので、タイに対する思い入れは深く、私も“タイスキ”人間の一人です。したがって、黒田さんのお話は同感する部分が大変多く、読みながら頷いている自分を発見したり致しました。

私との唯一の違いと思えるのは、黒田さんのタイ語の能力が既に可也なものであり、更に此れを磨いて行こうと決心しておられる点であります（私はタイ語をもう諦めました）。帰国時には、坪井さんと共にお目になり、タイ語上達のコツ等を聞かせて戴いたら、などと思いました。

皆さんのスピーチのまとめが有って、橋本潔様の宇宙観の図がそのまま綺麗に印刷されていました。以前橋本さんに2-3枚この図を戴いたのですが、人に差し上げてしまっただけで今は持っていません。素晴らしい物と思います。更により多くの皆さんに広く知れ渡れば、良いのにと思っています。此れを見ていると心が大きくなりますよね。

最後が坪井様の“私の原点にあるもの”です。前回の4回目に行く連載物で、坪井さんがやられた地味だが価値のあるブラウン管開発ストーリーで、おそらく坪井さんの活躍なくしてソニーのトリニトロンテレビは、此れだけ世の中の高い評価を受ける事は無かったのではないのでしょうか。素晴らしいアイデアと実行力ですね。成功と言う結果がわかっているのでも、楽しく読ませていただきました。

冒頭述べたように、大変立派な読み応えのある、会報になっていると思います。今回も此れは今井先生、坪井さんの大変なご努力によって作られたもので、心よりお礼を申し上げたいと思います。

拙い文で誠に恐縮ながら、お約束ですので、会報を読んだ感想をお送りいたします。

有難う御座いました。 鈴木 威一

5. 第六回懇親会決定事項

第六回懇親会においては、次の5項目について承認および決定がなされましたのでご報告いたします。

1) 会計報告、承認、

2) 1号～10号の合本案、承認 1年以内を目処に4部作製する予定です（国会図書館、NTT OB サロン室—今井先生のサイン入り、伊藤恭弘様、今井先生）。

今までの会報の文面について、掲載を拒絶する部分がありましたら編集時点で事前に削除いたします。

3) 懇親会：2年毎の開催に変更、承認、

会報：年一回9月発行に変更、承認

（ホームページのパスワード化を、との意見がでたが、会報内容を広く一般に公開したいという今井先生の意向を継承することに決定した — なお、既に掲載されたものの削除を希望される方は坪井まで）

4) 次回懇親会は2009年7月末「華迎」にての開催を予定（2008年の開催はない）。

5) 次期幹事：全員留任（坪井孝光、小野雅敏、鈴木威一）

編集後記

会報第 11 号は第六回懇親会の前半部分を中心にまとめた。懇親会は鈴木威一氏が会員の東京銀座の交詢社を会場として開催された。

会報には今井先生の巻頭文に続いて、懇親会に特別参加の平賀氏と岡本氏によるスピーチも掲載した。

紙面の都合でスピーチの前半部分は今会報に掲載したが、スピーチの後半部分は次回 12 号に掲載を予定している。

第六回懇親会の決定により、懇親会の開催は 2 年毎に、さらに会報は年一回の発行となった。また、今まで発行した 1 号から 10 号までの会報を合本し、国立国会図書館などへの寄贈も合意された。これにより、私達の生き様を記した記録が永久に（多分）保存されることになる。11 号以降についても、ある分量がまとまれば同じように国立国会図書館等への寄贈が考えられるので、これからの会報にも、後世に残して置きたい出来事などを大いに投稿していただきたい。

デジカメの性能が向上し、従来は 200 万画素程度の写真であったものが、最近のものは 300 万画素や 500 万画素の高解像度写真も珍しくなくなった。そうした多画素写真が添付されるようになり、JPEG で圧縮されたとはいえ一回のパソコン通信では 4 枚程度の送受信が限度となってきた。それ以上容量の多いファイルは分割して送ることになり、間違いが起こらないかと常に気を配ることになる。また、印刷にも時間を要することになってきた。

今井研卒研究生の会も満 5 年が過ぎた。5 年間使っていた XP のパソコンも、40GB の容量では不足になり、立ち上がりが極端に遅くなった。そこで、この 7 月に、250GB の Vista に買い替えた。さらに、メインメモリーも 256MB から大幅に増やし 2GB にした。これで大容量のものでも一度に受信できるようになった。新しいパソコンに慣れるのに少し時間を要したが、今回の会報はこの新しいパソコンにより編集を行った。

会報編集担当：坪井孝光

今井研卒研生・有志の会 第六回懇親会 2007.7.28 於 交詢社



(敬称略)

上段左から 鈴木威一、坪井孝光、倉本敏雄、小野雅敏、伊藤恭弘、安原信彦、橋本潔

中段左 齊藤哲也

下段左から 島田慶甫、岡本紘、平賀貞太郎、今井哲二先生、帯谷達郎